

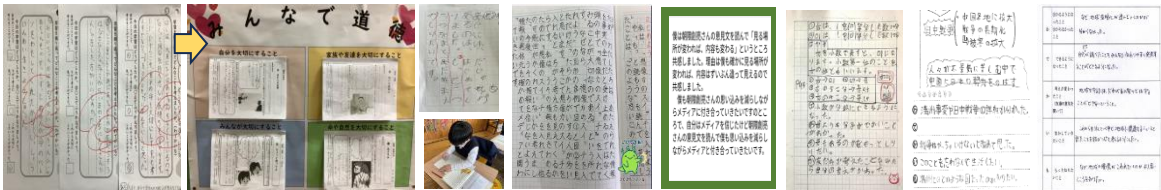
学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例（令和6年度版）

学校名	南九州市立知覧小学校	児童生徒数	260 人
-----	------------	-------	-------

○ 令和5年度 振り返りの実際

成果
○ 全教室の教室横にすぐわかるように掲示し、「わ・で・か・い・も」の意味や取り組み方を共有し、発達段階やに応じた振り返りができた。1年生は「わ」と「で」で、自分が特に感じたことを短く書くことを意識させた。理解の有無が整理でき、次時への意欲につながっている。教師側は、子供の思いを見取ることができた。 ○ 体育の時間には、「で」で振り返り、自分や友達のできるようになったことを見付けたり聞いたりすることで、次への意欲につながっている。 ○ 記入用紙を作成し、授業の終わり3分で記入させた。今まで見えなかった子供たちの気持ちの変化や成長の様子を確認することができた。 ○ 授業最後の振り返りを意識し、収穫に向け、集中して学習に取り組むことにつながった。また、書くことで自分の変化や成長に気付き、自己肯定感にも繋がるように感じた。
課題
○ 「話し合い活動」での「振り返り」で、議題について自分事として考えたり、友達の意見と自分の意見を比べたりして、もっと「か」を意識させるようにしていきたい。 ○ 振り返りが習慣付くことで、授業の終わりに発表し合ったり、掲示してお互いに読み合ったりさせることで、子供たちの学び合いにもつなげていきたい。

○ 令和6年度 振り返りの実際

改善策
○ 学校全体での取組に向け、特別教室内にも「わ・で・か・い・も」の振り返りカードを掲示し、意味や取り組み方を共有し、発達段階に応じた振り返りができるようにする。 ○ どの教科でも学習内容に応じて活用を図る。また、感想記入の際に「わでかいも」を意識させる。 ○ 振り返りの内容をお互いに見合ったり、発表したりすることを大切にする。（対話的）
成果等
○ 学年の実態や発達段階に応じて、取り組む内容を工夫して取り組むことができた。 ・下学年は、既習事項や学習内容に合わせ、教師が1つか2つ選択肢を与えて書かせるようにした。 ・タブレットを利用することで書くことのハードルが下がり、推敲が簡単になることで取り組みやすくなり、様々な教科で、「わでかいも」について、意識しなくても文章に書ける子が増えた。 ○ 様々な教科で振り返りができており、教科の特性に応じた振り返りのよさが表れていた。 ・体育…気付いたことを発言することで、自分の伸びや友達の頑張りに気付く意識が高まった。 ・道徳…振り返りを含むワークシートを掲示したことで、友達の考えに触れる機会が増え、道徳的实践意欲が高まった。 ・社会科…事象の理解にとどまらず、背景をどこまで理解できているか確認できた。次時への意欲付けにもつながった。 ○ 算数の時間の振り返りでは、十分に理解できていないところや練習が必要な問題を明確にすることにより、その日の家庭での宅習で自主的に意識して復習に取り組む子供たちが増えた。 ○ 振り返りの視点をもたせ、年間を通して振り返りをさせたことで、書くことが苦手な児童の困り感が減った。 ○ 児童自身が、自分の学習について主体的かつ客観的に見とることができるようになった。 ○ 子供たちの内面を把握することができ、教師側の学習の振り返りや今後の授業改善につながった。 ▲ 振り返りをするためには、1単位の授業を計画的に進めていく必要がある。（時間配分と「わでかいも」を意識した授業）

〈道徳の振り返りと掲示〉 〈1年生〉 〈5年生〉 〈タブレット〉 〈算数〉 〈社会科〉 〈理科〉

